

富士のさと SDGs調査団デイキャンプ

令和4年5月21日(土)

〇趣旨

SDGsへの理解を深め、地球に生きる一人の人間として、2030年までに、自分自身が世界の課題へどのように関わっていくのかを考える機会とする。

〇参加者

小学校4～6年生 40名

〇事業の内容

(1) SDGs ミッションウォークラリー

SDGsについて学んだ後、グループでSDGs ミッションウォークラリーに取り組んだ。SDGsに関するストーリーの完成を目指すため、所内に配置したカードを集めるとともに、問題の解答へのヒントとなるアイテムを得るためのミッションにも取り組んだ。



(2) 野外炊事

グループでシチュー作りに取り組んだ。水の大切さを体感するため、使用できる水の量を制限した。また、フードロス問題に触れ、ごみの量を最小限にすることを意識して野外炊事に取り組んだ。



(3) SDGs 調査報告

SDGs ミッションウォークラリーで集めたカードを並べ替え、SDGs に関するストーリーを完成させた。日本や世界の現状や課題について学んだ。



(4) オリジナル缶バッジ作り

SDGs のロゴマークを使用し、自分だけのオリジナル缶バッジを作った。自分を取り組みたいSDGs のロゴをバッジにし、行動宣言もバッジに書き込んだ。



○参加者の声（事後アンケートより）

- ・SDGs のことを知れて、勉強になった。
- ・SDGs を意識しながら楽しめた。
- ・水を制限して作るシチューはちょっと難しかったけど、美味しくできた。
- ・マイクロプラスチックについてのストーリーで、環境の大切さを知りました。
- ・貧しい国や人がいることが分かった。
- ・女性だからといって、差別するのはおかしいと思った。
- ・エコを心がけようと思った。
- ・自分の取り組みたいSDGs について、缶バッジにすることができて、頑張ろうと思った。

○成果・課題

○事前アンケートでは、約7割の参加者がSDGs について学習したことがないと回答していたが、事後アンケートでは、ほぼ全員が、SDGs を意識した生活を送ろうと思ったと回答した。この結果から、事業を通してSDGs への興味、関心が高まり、自分自身がどのように関わっていくのかを考える機会にすることができたと考える。

○コロナ禍ではあったが、多くの小学生に体験の場を提供することができ、このような事業にまた来たい、といった声も聞かれた。

●SDGs ミッションウォークラリーの難易度が高いと感じた。ストーリーやミッションなどを改善し、研修支援団体に活動プログラムとして提供できるように検討していく必要がある。